

令和 7 年度 学校評価書【学校運営協議会用】( 実施段階 )

福岡県立 西田川 高等学校

86

<p><b>スクール・ミッション</b> (本校の存在意義や社会的役割、目指すべき学校像)</p>	<p>「多様な生徒が安心して学べる環境で、一人ひとりの個性を伸ばし、未来を切り拓く力を育む、地区唯一の定時制単位制高校」 多様な個性をもつ生徒一人ひとりにとって「心のオアシス」となる安心・安全な学びの場を提供し、フレックス型単位制高校の強みを生かして生徒が求める能力を伸ばすとともに、地域と連携したキャリア教育を通して、一人ひとりの進路実現を図ります。</p>	
<p><b>スクール・ポリシー</b> (三つの方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な価値観や多様な他者を認める心と、豊かな人間関係を構築する力</li> <li>未知のものに立ち向かうチャレンジ精神や独創的な発想力の育成</li> <li>人とのかかわりを大切にしながら、豊かな心をもって社会に貢献できる人材の育成</li> <li>希望進路を実現できる確かな学力の育成</li> </ul>
	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自由な授業選択と卒業年限の選択</li> <li>習熟度別授業を開設し基礎学力定着から進学まで対応</li> <li>生徒の興味・関心に応じた多彩な選択科目の開設</li> <li>ボランティア活動による単位認定 ・高大連携等事業における単位認定</li> <li>地域連携による多様な人々との出会いや体験活動</li> <li>成功体験の積み重ねによる自己有用感の育成</li> <li>ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり</li> </ul>
	<p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学ぶ意味を理解し、良識ある社会人を目指す人</li> <li>学ぶ意欲にあふれ、確かな学力を身に付けようとする人</li> <li>自分も他人も大切に、よりよい人間関係を築こうとする人</li> </ul>

学校運営計画(4月)

<p>学校運営方針</p>	<p>(1) 支持的風土で個性を磨き、自己実現できる学校の実現 (2) 生徒の学びをひらき、個性をのばし、未来をつくる「心のオアシス」の達成 (3) 校訓「誠・敬・愛」 誠実で、礼儀正しく、自他を尊重する気運の醸成</p>		<p>評価 (総合)</p>
<p>昨年度の成果と課題</p>	<p>年度重点目標</p>	<p>具体的目標</p>	
<p>[成果]フレックス型単位制としての開課程5年目を迎え、安心・安全な「心のオアシス」という学びの基盤によって地域からの信頼が高まり、多様な学びに挑戦する生徒の姿が多数見られるようになった。 [課題] (1) 個別最適化された学びの追究: 多様な生徒に対応したきめ細かな学びの効果的な提供 (2) 柔軟な発想とパラダイム転換: 従来の発想にとらわれない多様な生徒の挑戦を支援する学びを提供 (3) 教育力最大化を追究: 職員一人ひとりが自らの良さを伸ばしつつ持ち味を生かした教育力の最大化 (4) 地域社会に開かれたコミュニティ・スクール「西田川」の実現</p>	<p>(1) わかる授業と個別最適化された学びによる確かな学力の伸長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎・基本から多様な進路目標達成に至る個別最適化された学びの充実</li> <li>観点別評価の充実で学ぶ価値を実感させ、授業を大切にする習慣を醸成</li> <li>個別最適化アプリを有効活用して多様な生徒の多様な学びや進路に対応</li> </ul>	<p>A</p>
	<p>(2) 多様な他者を尊重し合う人権感覚に基づく安心・安全な「心のオアシス」づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人ひとりの困りに向き合う生徒支援・教育相談体制の充実</li> <li>多様な他者の困りへの知的理解を深め、多様な他者の困りを想像する人権感覚を身に付けた良識ある社会人の育成</li> </ul>	
	<p>(3) 自己理解を深め、将来ビジョンを描くためのキャリア教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な体験の機会から自己理解を深め自己選択と自己決定能力を育成</li> <li>個人面談を充実させて生徒一人ひとりに伴走し、進路決定意欲を醸成</li> <li>次年度の「時間割づくり」の機会を活用して将来展望と向き合う姿勢を育成</li> </ul>	
	<p>(4) 地域社会に開かれた教育の充実(コミュニティ・スクール、田川地区小中高連携協議会の有効活用)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校教育の姿を田川地区、筑豊地区全域、北九州市小倉地区の中学校に周知し、必要な人に必要な情報を確実に伝達</li> <li>保護者教師会、同窓会、地域と連携強化した広報活動の展開</li> <li>生徒によるボランティアを単位認定することで社会参画意欲を喚起</li> </ul>	

自己評価							学校運営協議会評価		
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート(外部アンケート等)の結果等	評価(3月)			結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校運営協議会からの意見
教務	確かな学力と授業を大切にする心の育成	わかる授業の実践により、基礎・基本の徹底・充実を図る。	学校生活アンケート ○わかりやすい授業 ・少し当てはまる⇒29.3% ・かなり当てはまる⇒68.8% ○学ぶ面白さ ・少し当てはまる⇒39.5% ・かなり当てはまる⇒39.1%	A	A	A	アンケートの結果からも大多数の生徒が本校の基礎から応用に分けた習熟度別の講座選択を効果的に活かすことができている。発展・応用講座の選択者をより一層増やし、幅のある進路実現を目指していく。	A	アンケート結果から授業の工夫や習熟度に応じた取組ができていると考える。今後、より一層の動機付け・習慣付けを大事にした指導方法の研究を推進していただきたい。また、生徒一人一人の学習状況に合った学習スタイルとなるようICTを活用した授業改善に取り組んでほしい。
		評価確認週間により、生徒の授業に対する意欲の向上を図る。		A					
		欠席・遅刻・早退者への細やかな指導の充実を図る。		A					
	教職員の授業改善	授業見学期間並びに授業アンケートの実施及び教職員への還元。	A	A					
		観点別評価の効果的活用に取り組み、指導と評価の更なる一体化。	B						
		ICT等の効果的活用方法の共有を行い、教職員の授業改善を促す。	A						
進路支援	進路意識の育成	「総合的な探究の時間」と教科授業等の教育活動を有機的につなぐ。	学校生活アンケート ○近未来ガイダンスはためになった⇒87.1%	B	B	A	進路意識をもって授業に取り組む生徒が増えた。企業や上級学校を知る機会も増加したが、それを活用する生徒は限られている。日頃から進路に係る様々な情報を提供し、より一層の進路意識を育てていく。	A	個々の生徒が進路について早期から考え、主体的に取り組むことができている。今後は、全ての生徒が何のために、何を身に付ける必要があるかを考えることができるよう指導を強化し、学校全体で進路意識の高揚を図ってほしい。
		「進路ガイダンス」などによって企業や上級学校を知る機会を設け、自己理解や将来展望を明確にしていく。		A					
		「高大連携事業」などによって生徒の自己実現や進学に対する意欲を高める。		B					
	自己選択能力と自己決定の育成	教員の受講ガイダンス能力の向上を促し、受講ガイダンスの充実を図る。	A	A					
		「校外模試」「資格取得」の奨励をする。	A						
		「スタディサプリ」を効果的に運用できるように、教員・生徒に働きかける。	B						
キャリア支援	生徒が挑戦できる環境の充実	生徒が様々な体験活動に参加できる仕組み作りを実施する。	高校魅力化アンケート ○失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある⇒76.3% ○自分が何かに挑戦しようと思ったとき周りは手を差し伸べてくれる⇒89.1%	A	A	A	総探や部活動(チャレンジクラブ等)を通して、生徒が様々なことに挑戦する土壌を整えることができた。今後はより多くの生徒が様々な場面で活躍できる環境作りが課題である。	A	「田川探究」をはじめとする取組は生徒の主体性を引き出すものになっている。地元の商店街や企業との連携を深めながらキャリア支援を行うことによって生徒の勤労観・職業観の育成や進路意識の向上が図られる。今後も生徒の思いに寄り添った丁寧な進路支援を行ってほしい。
		総探の時間を活用し様々なことに挑戦できる環境づくりを図る。		A					
		生徒がより多くの社会と繋がる術を開拓する。		B					
	個別最適化されたキャリア支援	面談を通して生徒の進路と現状の整理を行い目標設定の支援を行う。	B	B					
		様々なロールモデルの提示とキャリア形成の手助け。	A						
		キャリアパスポートを通して生徒自身の成長を自己認識させる機会の設定。	B						
生徒指導	・挨拶の徹底と場に合った言葉遣いを身に付けさせる。 ・IDカード所持と着用の励行	授業や学校生活を含め、様々な場面で適切な言葉遣いを大切にする。	学校生活アンケート ○IDカード着用の意識調査 ・常に、少し着用する R6⇒51%,R7⇒40%	B	B	A	生徒に対する丁寧な言葉遣いや「○○さん」での呼びかけはできていた。一方、教員側からの挨拶励行には課題がある。また、全生徒にIDカード携帯の意義や徹底を次年度も引き続き説いていく。	B	学校が安心・安全な場所であり続けるために、教職員も生徒も丁寧な言葉遣いを意識していく環境づくりに尽力してほしい。また、個々の生徒に対して発達支持的生徒指導の視点に基づいた支援を行うとともに、学校内外での挨拶の励行を徹底して人と人の繋がりの基盤づくりを行ってほしい。
		教員自らが「挨拶励行」を率先垂範する。		B					
		IDカード所持と着用の意義を全職員が説諭しながら、安心安全を図る。		B					
	・安心安全な学校作りに努め、自他共に認め合う心の育成を図る。	定期的な学校生活アンケートを実施し、情報を収集する。	A	A					
		担任面談、スクールカウンセリング等を行う。	A						
		全職員による校内巡回(見守り隊)を実施する。	A						

修学支援	人権が尊重される学校・学級づくりの推進	相手を尊重したコミュニケーションを全職員・全生徒で実践する。	新入生人権意識調査 卒業生人権意識調査 卒業生追跡調査	A	A	A	不登校の生徒に寄り添い話を聞くことや困難を抱える生徒への対応を講じた。今年度は生徒による差別発言等はなく、人権問題について、生徒一人一人がしっかりと考えることができた。	A	自己存在感、自己有用感が高まることで自他を大切することができる。過去に不登校を経験した生徒も本校で生き生きとしている。今後も生命や人権を尊重した教育を推進するとともに、地域との交流や生徒会活動等を通して、ともに助け合い、支え合って生きていく姿勢を育んでほしい。
		授業や学校行事等を通して生徒の一人ひとりの個性の尊重に努める。		B					
		人権・同和教育を通して、生徒が人権について自ら考える機会を設ける。		A					
	人権・同和教育推進体制の充実	人権教育全体を計画し、全教科・全領域で取り組む体制を作る。		A					
		生徒情報の共有化を図り、生徒の修学を全職員で支援する体制を作る。		A					
		校内研修会の充実、校外研修の参加を促し職員の人権感覚を磨く。		B					
保健	健康意識の高揚	自らの健康は自ら守る自覚を持つような啓発活動をポスターなど利用して行う。	掃除道具の購入希望調査の実施	A	B	B	気温や湿度を提示し熱中症への注意喚起を適宜行うことができた。また、より良い給食の実施に関する意見交換を行うことができた。	B	近年の気候変動や自然災害を踏まえ、熱中症等の予防対策や防災意識、基本的な生活習慣の大切さを伝え、健康や安全を自ら管理できる生徒の育成に努めてほしい。また「美しい環境に美しい心が育つ」ので、校内環境美化については誰かがやるだろではなく、自ら率先する態度を育成してほしい。
		給食委員会を実施し、毎月の給食内容を確認し調整を行う。		B					
	安心で安全な環境づくり	校内にゴミがなく、きれいな校舎が保たれるような掃除割の作成や適切なごみ処理ができるようにする。		B					
		掃除道具の適切な整備を行う。		B					
企画・広報	パンフレットやSNS、個別相談会を活用した効果的な広報	定期的に配布物を作成し、中学校訪問を実施する。	A	A	A	A	前期、後期に中学校訪問と学校外での相談会を実施し本校での学びを求める生徒へ情報が届くよう努めた。インスタグラムやホームページを適宜更新し本校の教育活動を発信することができた。	A	インスタグラムやホームページの内容の充実、個別相談会等の実施を通して学校の魅力を発信し、他学区からの入学者も増えている。現在の取組を発展的に継続するとともに、広報担当者の偏在的な負担軽減を図るため持続可能な組織体制づくり及び組織改善を推進してほしい。
		個別相談を充実させ、本校での学びを必要とする生徒に届ける。		A					
		インスタグラムやホームページを適宜更新する。		A					
	円滑な校務運営の促進と、保護者教師会、同窓会との連携	学校行事をはじめ、校務運営の円滑化に寄与する。		A					
		生徒の健全な育成につながる研修や活動を保護者と協力して行う。		A					
		同窓会との連携を密にし、周年行事に向け、準備を進める。		B					
図書・研修	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進	授業参観・研究授業を設定し研究授業や公開授業を行う。	A	A	A	A	次年度は、相互授業参観に積極的に取り組んでもらうようにする。校内研修の内容や在り方についても検討する。年度の総括も含め、今後も様々な研修・研究内容を研究紀要としてまとめていく必要がある。	B	学び続ける教師として互いに高め合える職員研修を行うとともに、生徒が主役となる授業の構築に励んでもらいたい。良い授業実践は相互に取り入れ、全体の授業改善や専門性の向上を図ってほしい。また、図書館機能の回復を図り、より良い図書館運営を行うことを期待する。
		研究協議などを通して、互いの授業を改善していく。		A					
		各種校外研修への積極的な参加を推進する。		B					
	図書館利用と読書の推進	オリエンテーションを実施し、図書館利用の促進を図る。		A					
子ども読書の日や、総合的な探究の時間等での読書活動の充実		A							
新入生年次	自他を尊重する豊かな人間性を育成する。	定期的に面談を実施し、生徒の困り感や悩みを共有する。	学校生活アンケート ○毎日、学校へ行くのが楽しい⇒88.4%	A	A	A	他者との適切な距離感を保ちつつ、年次全体で安心して学べる環境づくりができた。年度当初に面談を行う期間があったため、入学してきた生徒一人一人としっかりと向き合えた。	A	約9割の生徒が、学校へ行くのが楽しいと回答しており、安心・安全な学校づくりの成果が出ていると考える。また、安心して学べる環境が生徒一人一人の積極的な学びに繋がっているとも考える。今後も生徒が自ら考えて行動することができる指導・支援をより一層推進してほしい。
		言葉遣いやマナーの指導を通して、他者への配慮ができる心を涵養する。		A					
		他者への感謝を言語化する活動を通して、自他を尊重する雰囲気を作る。		B					
	興味関心の幅を広げることで、生徒の進路選択の幅を広げる。	行事の振り返り活動を充実し、自己の成長を実感させる。		A					
		高校卒業後の自分の姿を考えさせる進路HRやキャリア教育を実施する。		B					
		長期休業中に進路意識を高める活動ができるよう助言を行う。		A					

在校生年次	自分のペースで自分の生き方や進路について考える。	毎月の面談を通して、生き方や進路についての考えを共有する。		A	A	面談を通して、生徒理解へとつなげることができた。Goodwill Personの取組は、生徒の自己有用感の育成へとつながっていった。	A	様々な体験活動が工夫されており、充実している。生徒は先輩の姿を見つづ進路についての情報収集を行い、今の自分と将来の自分を結び付けながら、今何をすべきかを見出し、今後は卒業生年次となる自覚や卒業後の在り方生き方を意識できるような取組に尽力してほしい。		
		自己有用感を育成する取組として褒める活動を実施する。		A						
		自分を大切にすることで他者を受け入れられるようにする。		A						
	多くの経験を積み重ね、挑戦し学ぶことを大切にする。	学校生活を中心に、日々の活動を積み重ねることを大切にさせる。		A					A	探究活動(田川探究)や学校行事(西高スクールマッチ・西高フェスタ等)を通して、生徒は意欲的に動き、自己実現につなげていた。
		田川探究や学校行事、地域との連携、ボランティア活動に挑戦させる。		A						
		日々の活動や挑戦から学んだことを振り返り、次につなげさせる。		A						
卒業生年次	自己理解を深め、将来の展望を明確にできるようにする。	進路学習等で正しい情報を提供し、納得のいく進路選択ができるようにする。		A	A	1月19日現在の進路状況。4年大(9)、短大(2)、専門学校(19)、就職(15)、公務員(1)、4年大未定(4)、未定(9)、卒業延期(9)。どの進路実現においても面接が必要となるので4月当初に行ったインタビューミッションは効果的であった。	A	3年間又は4年間の教育活動を通じて生徒が成長していると実感できる。自分の言葉で語ることや、初対面でもコミュニケーションを図る力等が身に付いている。一方で、卒業延期となった生徒の背景や要因を把握することや、全ての生徒が適切な言葉遣いができる指導の徹底を図ってほしい。		
		個人面談を密にし、生徒一人一人に適した進路指導を行い主体的に動けるようにする。		A						
		教員間で共通理解を図り指導に当たる。また、保護者に対しては理解と協力を仰ぐ。		B						
	社会人としての自覚を持ち、自身の行動に責任が持てる人物に育成する。	他者を思いやる気持ちを持たせ、周囲の者を傷つけたり、嫌な思いをさせたりすることがないように指導する。		A					A	一部の生徒が、周囲への配慮に足らない言動をすることはあったが、おおむね卒業年次生としての自覚ある行動ができた。一方、卒業延期の生徒が複数出たことは次年度に向けての反省事項である。
		場に応じた言葉遣いの使い分けができるよう根気強く指導する。		B						
		社会人としてあるべき姿を想像し、行動できるようにする。		A						

#### 自己評価及び学校運営協議会評価を踏まえた今後の改善策

- ・各教科等における授業難易度の設定を見直し、生徒に対する適切な受講ガイダンス等を進める。
- ・生徒の学習意欲を高めるため、単元テストや査考の在り方及びルーブリック評価の確立を図る。
- ・スタディサプリの効果的な活用や授業改善を推進するための取組並びに職員研修の充実を図る。
- ・授業規律の向上を図るとともに、日常生活における規範意識の醸成や挨拶励行の取組を進める。
- ・教諭や常勤講師、非常勤講師の区分なく、全ての教職員に対する人権意識の更なる向上を図る。
- ・身体障がいのある生徒をはじめ、全ての生徒に対する災害時の適切な避難方法の改善を重ねる。
- ・近隣幼稚園や小学校との連携、中学生が参画する企画の立案等を通して広報活動の充実を図る。

学校運営協議会評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A: 適切である
	B: 概ね適切である
	C: やや適切でない
	D: 不適切である
評価項目以外のものに関する意見	
校長のリーダーシップのもと、新しい取組にチャレンジし、成果を上げている。	